

## 令和2年度 長崎県立長崎東中学校・長崎東高等学校 学校関係者評価 報告

1 評価の実施期日 令和3年2月22日(月) 10:00~11:30

2 学校関係者評価委員

学校評議員と兼務。5名中、4名出席

3 学校関係者評価の内容

(1) 学校現況報告

・教育活動、生徒募集、国際科選抜、部活動実績、WWL活動、コロナ対策、働き方改革について

(2) 学校評価説明

・重点努力目標を中心とした分析と今後の対応について

(3) 委員からの意見等

○コロナ禍の中で学校に来る機会が減ったが、学校通信「立山の風」を毎月送ってもらい、学校の様子や取組がわかりありがたい。

○コロナ禍の中で大変だが、その中で生徒の興味を引いたり保護者の理解を得ながら、学校活動に前向きに取り組んでいる様子は、まさにピンチをチャンスにしていると感じる。

○県内に修学旅行を変更したことは、郷里の良さを再発見する機会ともなり、評価したい。

○WWLの取組などは、九州内でも先進を走っている。数々の制約の中で、逆境をプラスにしていることが窺える。

○予測困難な中で、学校でも一人一台タブレットなど新しい時代が来ている。こうした中、地域のリーダーとして本県の教育発展に寄与して欲しい。

○高総体や学習合宿、その他の行事で変更や中止が相次ぎ、高3受験生の気持ちの切り替えが難しい一年だったと思う。しかし生徒たちはモチベーションを上げ、前向きに取り組んでいたと感じる。

○コロナ禍の厳しい状況の中で、生徒たちが自らの本分を見失わず逞しく成長していること、そしてその陰で保護者や先生方の支えがあったことを窺うことができた。生徒は制約や不自由な環境の中で日常がどれほど大事であるかなど、様々なことを学んだと思う。

○コロナ禍の中で、経済的に困窮している家庭の支援を今後も行って欲しい。

○生徒アンケートで「私は周囲や相手のことを思いやって生活できている」の肯定的回答が高く、素晴らしい。一方で「私は、将来グローバルリーダーとして活躍したいと思っている」の肯定的回答が少なく、東中・東高の生徒としてもっと高くあって欲しい。